

0022-04

会場:303

時間:5月23日 09:15-09:30

白滝ジオパークにおけるジオツーリズムの実践と課題 Geotourism and its problems in Shirataki Geopark

熊谷 誠^{1*}, 堀嶋 英俊¹

Makoto Kumagai^{1*}, Hidetoshi Horishima¹

¹ 遠軽町役場ジオパーク推進課

¹ Engaru Town Geopark Promotion Department

2010年9月、白滝ジオパークは、念願だった日本ジオパークネットワーク加盟を果たした。国内最大規模の黒曜石産地が存在し、その直下には旧石器時代の一大石器製作遺跡が残されていることから、これらをテーマに地球とヒトをつなぐストーリーを組立てジオツーリズムを実施してきた。本発表では、白滝ジオパークにおいてこれまで試行段階として位置づけ実施してきたジオツアーについて紹介し、今後、根幹事業として成立させていくために必要と考えられる課題を述べる。

【第1段階：周知・啓蒙を目的とした町民向けジオツアーの開催】

白滝地域では、黒曜石と旧石器遺跡の知名度が高かったこともあり、黒曜石露頭を目的地とした観光ルート開発の試みが民間団体を中心にすでに行われていた。これらの基盤に“ジオ”の要素を加えるため、ルート上にあるジオサイトの発見、地質情報の整備、ストーリーの構築を専門家と行政職員が協働で行った。その成果として開催した町民向けジオツアー「黒曜石探検隊」は、黒曜石ファンのみならず幅広い層から支持を得た。また、「黒曜石＝石器」という認識の強かった町民に対し、黒曜石が火山活動と密接不可分であるということ、黒曜石露頭だけでなく見慣れた地層や岩石も解説とストーリーによって見どころとなるということを示すことができた。このような町民向けジオツアーは現在も定期的に開催しており、ジオパークの概念の周知とともに担い手となる人材の獲得に大きな役割を果たしている。白滝ジオパークには、黒曜石以外にも“ジオ”を伝える様々な魅力が存在しており、調査成果を町民向けに発信できるこのようなスタイルは今後も継続していきたいと考えている。

【第2段階：旅行会社とタイアップしたモニターツアーの実施】

白滝黒曜石遺跡ジオパーク構想推進協議会では、(株)シービーツアーズとタイアップしたモニターツアーを実施している。ジオサイト見学のみならず、石器づくりや芋掘りなど地域ならではの体験活動や既存レクリエーション施設と連携したプログラムが組まれ、参加者アンケートでは、80%以上からツアー内容に満足との回答を得た。課題としては、マスコミを活用した広報ができなかったため参加人数が少数にとどまり、知人を通じての参加が目立った。また、専門家による解説は勉強になったが、“旅の思い出”として手元に残るものが少ないため、口コミをしようにも伝える手立てがないとの意見が多かった。

【第3段階：マスコミの活用と広域連携の取組み】

本格的なツアー実施に向け、担い手となる地元住民との連携体制の確立と、マスコミの活用を前提としたツアーの広報活動が課題とされた。マスコミの活用については、オホーツク地域の観光促進を目的とした広域連携の取組みである「不思議遺産オホーツクキャンペーン」に参画することができ、旅行雑誌やテレビ番組など各種メディアにおいてジオツアーの周知を行うことができた。夏休み前半の計7日間の募集であったが、団塊の世代の夫婦や親子（主に小学校低学年）を中心に地域外から300名近い参加があった。白滝ジオパークは、ヒグマと遭遇する可能性がある山深い地域にジオサイトがある。そのため参加者の安全を第一に考え、サイト解説を行う専門家および行政職員のほか、野外活動の経験豊富な地元住民にバックアップを依頼し、20名の定員に対し常に4名以上のスタッフが同行する体制をとった。結果として、地元の動植物に詳しいスタッフのおかげで多様な参加者層へも対応や気配りができ、通り一遍のサイト解説に陥ることもなく、円滑にツアーを進行することができた。

【今後の課題について】

ジオパークの根幹事業としてジオツーリズムを成立させていくためには、ガイドの養成から経営体制の確立、徹底した安全対策など課題は山積みである。なかでもガイドの養成は急務であるが、白滝ジオパークではガイド養成講座などの取組みは緒に就いたばかりである。しかしながら、地元住民と連携してツアーを進行することにより、互いの知識を互恵的に享受しあう関係性が構築されている。担い手となる人々にとってジオツアーはフィールドワークそのものであり、地道ではあるが、より専門的な知識・技術の習得を自発的に望むように環境を整備していくことも必要であろう。また、

地域住民が紹介したいと思うジオサイトと、観光客が訪れてみたいと感じるジオサイトという観光研究的視点からみた需給の均衡の事前把握（深見，2010）は重要であり，白滝ジオパークでは両者とも黒曜石であることは疑いない．両者の期待を裏切らないよう，白滝ジオパークの持つさらなる魅力をいかに発信していくかが今後の課題である．

【引用文献】

深見 聡（2010）「ジオパークとジオツーリズムの成立に関する一考察」『地域総合研究』38(1)，pp.63-72

キーワード: 白滝ジオパーク, 黒曜石, ジオツーリズム

Keywords: Shirataki Geopark, Obsidian, Geotourism